

図書館員のひみつの本棚 第 238 回

今月は、中国の昔話えほんを紹介します。

『こいぬをつれたかりうど』 牧野 夏子／再話, 佐々木 マキ／絵

福音館書店 2024 年 1000 円

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです)

<本の紹介>

あるところにやせて年老いた狩人がいました。この狩人が狩りに使うのは、縄と子犬。たったこれだけで、必ずどんな獲物も持って帰ってきます。村に下りてきて人や牛を襲う、とらの退治を任された狩人が狩りに使うのは、やっぱり縄と子犬だけ。首をかしげる村人たちに見送られ、とらのいる山に出かけた狩人は、おそろしいとらを退治することができるのでしょうか？！

<子どもに手渡す時のポイント>

中国で語り継がれている昔話です。狩りのひみつはごま油。これをたっぷり子犬に飲ませ、体中をごま油で洗ってやるので、子犬からはごま油の香ばしい香りがぷんぷん、体はつやつや。狩人と子犬の連携プレーで、見事にとらを捕まえる痛快なおはなしをぜひお子さんと一緒に楽しんで下さい。昔話の面白さをダイレクトに味わうことができるでしょう。はっきりした色使いの絵とすっきりしたストーリーは読み聞かせにもおすすめです。日本の昔話とはまた違った魅力のある外国の昔話を読み広げるきっかけにもなる楽しい一冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。